


# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 大里柳小学校】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校児童557名 （トランポリン教室…6年生児童91名、ボッチャ教室…5年生児童95名、ボルダリング教室…全校児童）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① <b>教科等名</b>（ 体育・総合的な学習の時間・特別活動 ）</p> <p>② <b>行事名</b>（ トランポリン・ボッチャ体験特別授業 ）</p> <p>③ <b>その他</b>（体育委員会による昼休みボルダリング体験）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	○ 東京オリンピック・パラリンピック2020競技大会の競技種目となっているトランポリン、ボッチャおよびスポーツクライミング（ボルダリング）を体験したり、競技者と交流したりすることを通して、大会競技を身近に感じ、楽しさを実感することで、東京オリンピック・パラリンピックにこれまで以上に注目し、アスリートへの応援する気持ちが高まるようにする。また、生涯にわたる体力の維持・向上に対する意識を高め、積極的にスポーツに取り組もうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>(1) 令和2年11月26日（木）「第6学年トランポリン体験教室」講師：トランポリンクラブ スペースウォーク</p> <p>6年生児童を対象にトランポリン教室指導者を招いて、トランポリン体験教室を開催した。</p> <p>各クラス3グループに分かれて、1人ずつ指導員のサポートを受けながらトランポリンに上がり、起立した姿勢でバウンドする初歩的なものから、座位や仰向けの姿勢からバウンドして立ち上がるやや高度な動きのものまでチャレンジし、トランポリンを使って体が浮き上がる感覚を体験した。児童からは、「うまくバランスをとることが難しかったけれど、フワッと体が浮かぶ感じが面白かった」「オリンピックの競技だと聞いて、応</p> 

	<p>援したくなった」などの感想をもつ児童が多くいた。</p> <p>(2) 令和2年10月8日(木)「第5学年ボッチャ体験教室」 講師：北九州市スポーツセンターアレアス</p> <p>5年生児童を対象に北九州市スポーツセンターアレアスの職員を招いて、ボッチャ教室を開催した。各クラス5、6人のグループをつくり、実際のゲームを通してパラスポーツの楽しさを体感した。児童からは、「パラスポーツは、障害がなくてもあってもできる、だれもができるスポーツなので楽しめました」などの感想をもつ児童が多くいた。</p>  <p>(3) 令和2年11月～12月「ボルダリング教室」</p> <p>本校体育館に設置したボルダリングコーナーを活性化させるために、ボルダリング教室を実施した。各学級にてボルダリングコーナーの使い方や安全面での指導を行った上で、体育委員会が中心となって、手指消毒や安全面に留意しながら、昼休みに自由にボルダリングにして親しめる取り組みを行った。時間を計るなどゲーム要素を取り入れて、動きのレベルが楽しみながら上がるように工夫した。休み時間に参加した児童は、「時間内にゴールして嬉しかった。次のレベルにチャレンジしたい」「こうすれば、できるよ」と楽しみながら教え合う姿が見られた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○ 今回の取組を行ったことで、大会競技を身近に感じ、楽しさを実感することができているような姿が見られた。また、このことで東京オリンピック・パラリンピックにこれまで以上に注目し、アスリートへの応援する気持ちが高まるものと考えられる。また、取組を通して、教え合ったり、アドバイスを聞いてチャレンジしたりする様子も見られ、スポーツに親しむ素地がより確かなものになることにつながった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○事前指導として、パラリンピックやパラスポーツについての学習を行ったため、より一層理解が深まった。</p> <p>○昼休みにボルダリングを実施する前に校内で職員研修を行い、安全な使用に向けたルールや使用方法を確認することで、一貫した指導を行うことができた。</p> <p>○「遅延装置アプリ+大型テレビ+タブレット」というICTシステムを構築し、自分の動き方を確認したり、友達同士でポイントを教え合ったりすることで、体力向上とともに効果的な登り方を試行錯誤しながら挑戦するといった資質・能力の向上が図れるよう工夫した。</p>

<p>8 主な課題等</p>	<p>○トランポリン教室・ボッチャ教室共にコート作りやチーム編成等の環境整備が必要。</p> <p>○昼休みのボルダリングを運営していく上では、教師の手が必要であった。現在、子ども達が主体となって運営していけるようなルール作り等、手だてを検討中。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○このオリンピック・パラリンピック教育を一つのイベントとして終わらせるのではなく、スポーツを「する」「見る」「支える」という視点で、日々の様々な教育活動と関連付け、カリキュラムマネジメントしていくことが大切であると考え。コロナ禍においても、オリスポーツ・パラスポーツを切り口に、子どもたちにとって有意義な活動を模索しながら、持続可能な大里柳小のレガシーの創造に努めていきたい。</p>